



介護未満もけっこうタイヘン!



この通信がお手元に届くころはすっかり秋になっているでしょうか。10月半ばの今、長い酷暑の夏が終わってホッとしています。建設業界などは国が音頭を取って酷暑対策を講じていますが、忘れられているのが、わが介護業界。とくに訪問ヘルパーの自転車やバイクでの炎天下の移動、エアコンさえない住環境で働く過酷な労働への配慮は全くされていません。財政が豊かな東京都は保冷グッズなどへの補助金を支給していますが、道路一本隔てた埼玉県新座市は皆無。北海道でさえ40℃を超える日がある今、国として対策を講じてほしい。ただいまそのための要望書を準備しています。また訪問介護を利用されている方々には、汗だくで到着するヘルパーがクールダウンする余裕などの配慮をいただければ幸いです。

読書の秋、『介護未満の父に起きたこと』（ジェーン・スウ著、新潮新書）は一読をお勧めします。要介護認定までは間がある「介護未満」の父と娘の詳細な記録で、本の帯に「人はいきなり寝たきりになるわけではない。…たいていは誰もがイメージする「ザ・介護」の前段階がある。騙しだましやっていた今までの生活がさまざまな理由でひとりでは回せなくなる日がやってくるのだ」。そのとおりです。

「ザ・介護」はプロのわたしたちでも、「介護未満」をどうすべきか答えは持っていません。73才のわたし、お父さんに起きている事態に近い将来の自分に重なって、身につまされるばかり。ありがたいことに、この本は「介護未満」の親子の指南書にもなります。しかし著者のように親に優しい上に実行力も経済力もある娘・息子はめったにいない。子どもがいない人も少なくない。例えば片づけられない時期に入ってゴミ屋敷未満がザ・ゴミ屋敷になっていくのを止めるにはどうすればよいのか。自費サービスという手はありますが、1時間当たり三千円から五千円が相場、けっこうな額です。

しかし元気高齢者の方々、とてもノンキです。高齢者向けの介護学習会で、「子どもさんにあなたたちの世話にはならない、と言っている人は？」とたずねると結構な割合で手があがります。いやいや、寝たきりでオムツをかえるような介護はプロに任せればよい。けれども病気やけがで入院・受診する、介護保険の申請をするなど誰かに任せる場面はいっぱいあります。「よろしくね」と伝えておきましょう、今まではそう伝えてきました。しかし読了後、ちょっと違うかな、さてどうしようと熟慮中です。ウチの子どもたちにどう依頼するかも含めて。むずかしいんだな、これが。

代表理事 小島美里

